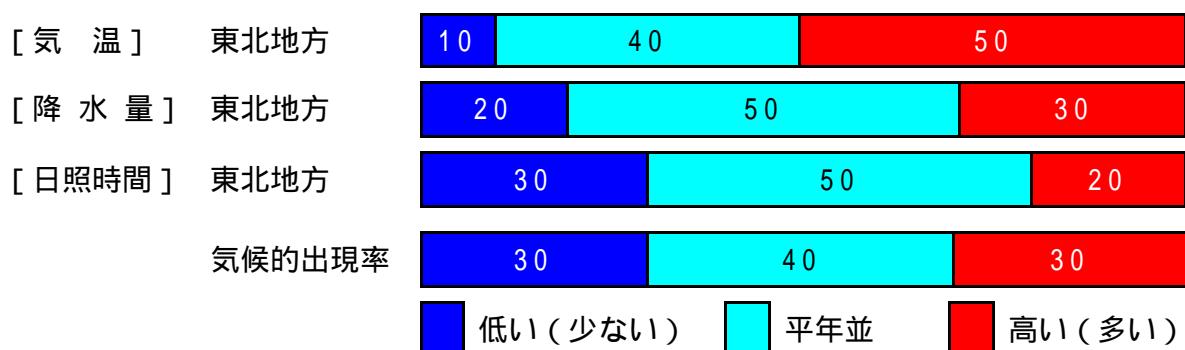


東北地方 1か月予報の解説(予報期間:10月9日~11月8日)

平成11年10月8日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で40%です。「低い」の確率は10%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。

この期間の平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は約17日です。

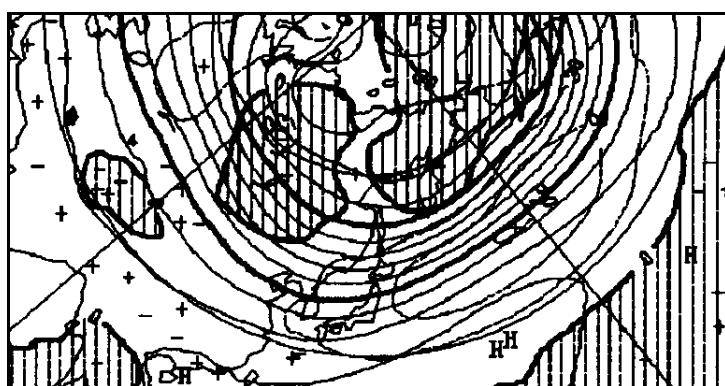
各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 期間の中頃に、気圧の谷の影響で天気の崩れるところがあります
(10月9日~10月15日) が、他の日は、おおむね晴れる見込みです。
平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は約4日です。
なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。

2週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。
(10月16日~10月22日) 平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は約4日です。

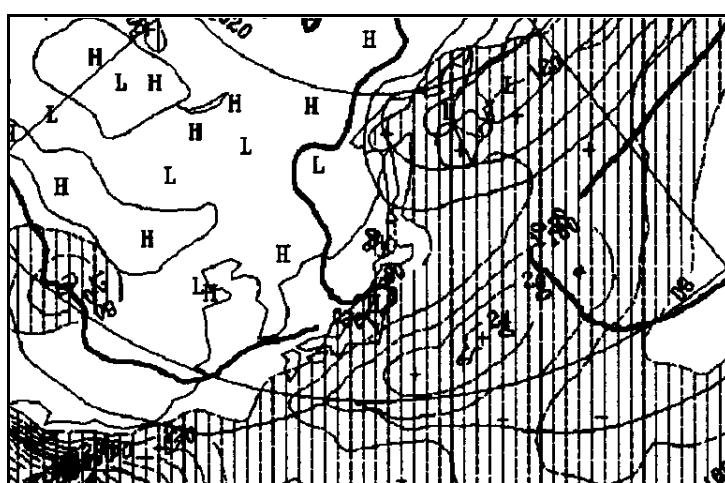
3~4週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。
(10月23日~11月5日) 平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は約8日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は日本の東海上を中心とした正偏差に広く覆われる。また、日本の南東海上にある高気圧の勢力は平年より強い。流れはゾーナル^{注1}だが、西谷^{注2}傾向を示す。このため、天気は周期的に変化するが、寒気の南下は弱く、気温は高めに経過しやすい。



注1)ゾーナル：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。

注2)西谷：上空で日本の西側が気圧の谷となり、南から暖かく湿った空気が入りやすい。

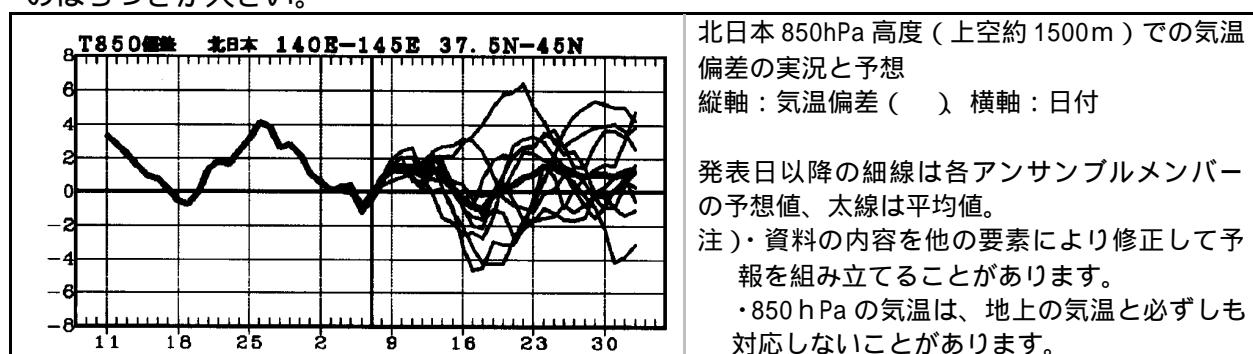
・地上気圧と降水量

月平均でみると、本州の南海上には前線に対応してまとまった降水域が予想される。週別では3~4週目(図略)に、日本の北を通過する気圧の谷に対応した降水量が表現されている。

日本付近に特徴的な気圧配置が見られないで天気は周期的に変化する見込み。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目は高めが予想されるが、2週目には平年並になる予想。後半は再び高めが予想されるが、2週目以降のメンバーのばらつきが大きい。

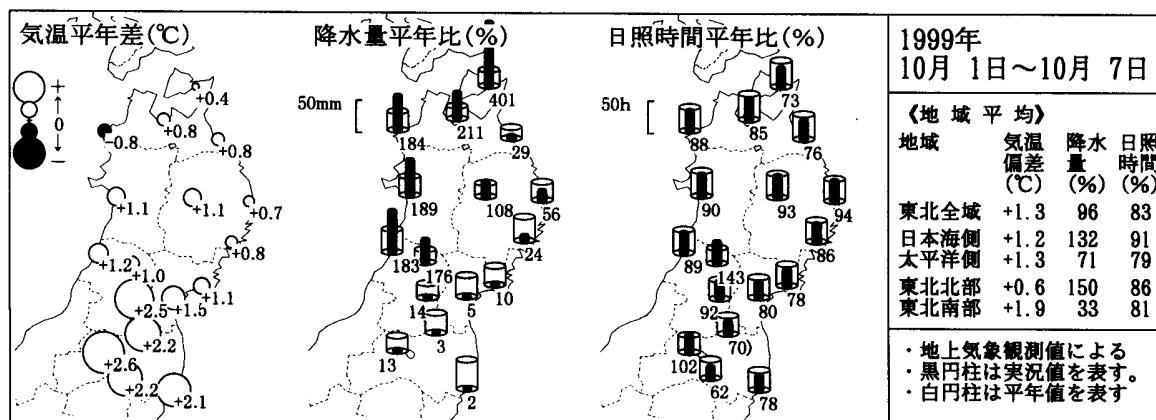


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します(この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます)。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間(10月1日~10月7日)の天候の経過

この期間は、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化した。2~3日、と5日、7日は低気圧や気圧の谷の影響で北部を中心に曇りや雨になった。その他の日は移動性の高気圧に覆われ全般に晴れた。

平均気温は東北地方で偏差が+1.3と高かった。降水量は東北南部で33%と平年より下回り、東北北部で150%と平年を上回った。日照時間は東北地方で平年比83%と平年を下回った。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)